

国語Ⅱ(古文) : Japanese Ⅱ		学年	単位	授業時間	科目区分	授業形態	学修単位
国語Ⅱ(古文) : Japanese Ⅱ		2MB	1	50分×30回	履修	講義・通年	—
教員名		中井 賢一 : NAKAI Kenichi					
授業概要	<p>検定教科書掲載の古文を素材として、日本の言語文化についての、より深い知見を養う。          文法事項を体系的に整理するとともに、各作品の文学史上の位置や享受の様態についても理解を深める。          国語Ⅱの古文領域においては、正しく古文を読むことや古文の美しさを味わうことに留まらず、鑑賞文の制作を通して自分なりの享受のありかたについても考える。          語彙力の充実と定着を図るため小テストを、また、速読力の強化を図るためリーディング課題を、それぞれ適宜実施する。</p>						
到達目標				評価方法			
(1) 文語文法等についての理解が定着し、作品を読み味わうことができる。 (2) 文学史について、正しく理解することができる。 (3) 自身の見解を、鑑賞文として簡潔に表現することができる。				① 試験(中間・期末)(60%) ② 到達度確認テスト・小テスト・リーディング課題・鑑賞文(20%) ③ 自学レポート(10%) ④ 受講態度(10%)			
学習・教育目標		G①		JABEE基準1(1)		—	
回	項目	内 容		回	項目	内 容	
第1	ガイダンス	授業の概要と授業の受け方について理解する。		第16	和歌①	暗唱テストを行う。和歌のリズムを理解する。	
第2	古今著聞集	「大江山」を素材として、文法事項の知識と和歌読解の方法について復習する。		第17	和歌②	和歌修辭法に習熟し、作品の主題と背景について理解を深める。変体仮名についての理解を深める。	
第3	方丈記①	「ゆく河の流れ」を素材として、文法事項についての理解を深め、作品の主題を読み取るとともに文学史上の位置について考える。		第18	和歌③	"	
第4	方丈記②	"		第19	和歌④	指定された和歌一首について、鑑賞文を書く。相互評価を行う。	
第5	方丈記③	"		第20	和歌⑤	鑑賞文を適切に口頭発表する。(前半)	
第6	方丈記④	"		第21	和歌⑥	鑑賞文を適切に口頭発表する。(後半)	
第7	方丈記⑤	主題に対する自身の見解をまとめ、鑑賞文を制作する。回覧し、相互評価を行う。		第22	更級日記①	「門出」を素材として、助動詞・助詞までの文法事項を整理しつつ、作品の主題を読み取る。文学の享受について理解する。	
第8	到達度の確認	文法事項と古語についての「到達度確認テスト」を行う。		第23	更級日記②	"	
第9	伊勢物語①	「初冠」「通ひ路の関守」を素材として、和歌修辭法についての理解を深め、作品の主題と後世への影響について考える。		第24	更級日記③	"	
第10	伊勢物語②	"		第25	更級日記④	"	
第11	伊勢物語③	"		第26	源氏物語①	「桐壺」(冒頭)を暗唱する。源氏物語の文学史上の位置と後世への影響について理解する。	
第12	伊勢物語④	"		第27	源氏物語②	「若紫(前半)」を素材として、敬語を中心とした文法事項について理解しつつ、作品の主題を読み取る。王朝の文化と政治について理解する。	
第13	枕草子①	「雪のいと高う降りたるを」を素材として、随筆文学の特徴と、枕草子の文学史上の位置について理解する。		第28	源氏物語③	"	
第14	枕草子②	"		第29	源氏物語④	"	
第15	枕草子③	"		第30	まとめ	全体の学習事項のまとめを行う。授業評価アンケートを行う。	
自学自習の内容	レポートを課す。						
関連科目	国語Ⅰ						
教科書	『改訂版高等学校古典(古文編)』第一学習社						
参考書							
授業評価・理解度	最終回到授業評価アンケートを行う。						
副担当教員							
備考	国語Ⅰ(3単位)の最終評価は、国語Ⅱ(現代文・漢文)と国語Ⅱ(古文)を2:1として評価する。						